

構成イメージ①

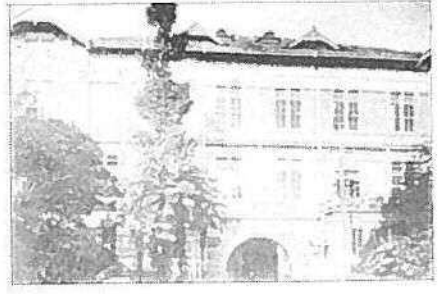
第七節 諸学校の状況

一 官・府・市立学校

(一) 官・府・市立学校

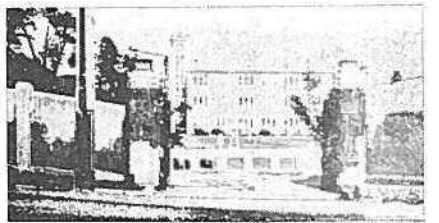
大見出し
中等諸学校
中見出し
東京府立第六高等女学校

港区港域内の府・市立の中等諸学校としては、数は少ないが次のような学校があった。



東京府立第三高等女学校 (『東京府史』)

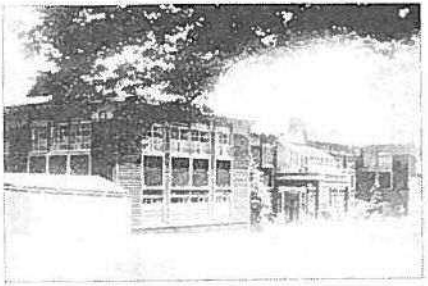
大正一三年現在地(港区三田一四一四六)に校舎を建築した女子校であったが、昭和二五年より男女共学。東京府立三田高等学校となる。
東京府立第三高等女学校 麻布区北日ヶ窪三七に明治三四年創立した。大正一〇年高等科(現在短大相当)を設置した。昭



東京府立第六高等女学校 (『東京府史』)

和八年皇居陛下の旧学問所が御下賜になり、「御光寮」として現存している。昭和二年現在の駒場に移転する。昭和二五年より男女共学東京府立駒場高等学校となった。
東京府立第二十二中学校 麻布区宮村町六九に昭和一七年創立した。昭和一八年東京府立城南中学校と改称した。男子校である。二三年東京府立城南高等学校と改称し、男女共学となった。
赤坂区青山北町五丁目にあった青山

学校名	開校	修業年限
東京府立女子中学校	(昭一四・四)	五か年 昭一六年世田谷区へ
東京府立第十中学校	(昭一二・四)	" 昭一四・四杉建区へ
東京府立第十四中学校	(昭一五・四)	" 昭一六・四神井中学校と改称(練馬区)
東京府立第十五中学校	(昭一四・四)	" 昭一七・四東京市立多摩中学校と統合
東京府立第十二高等女学校(第一四・四)	"	昭一五年に板橋区へ移転、昭一六年に東京府立北野高等女学校と改名



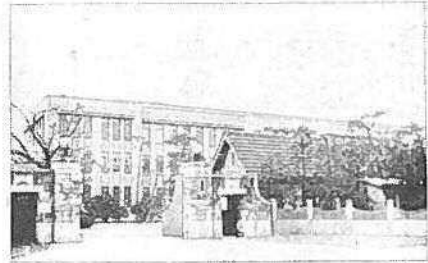
市立板橋商業学校芝公園仮校舎

実業学校 官立、府市立の実業学校として
は、次の各校が設立されている(『芝区誌』・『麻布区史』・『赤坂区史』)。
市立京橋商業学校 芝区芝公園四号地に大正一三年五月創立した。昭和五年一月京橋区より現存地復興島第一出張所跡仮校舎に移転した。昭和一四年四月一日に、東京市立芝浦商業学校と校名変更となった。

第七節 諸学校の状況

昭和一六年三月三十一日に、芝区海岸通りに新校舎建築ができた。
市立葛飾工業学校 芝区葛飾北町一五番地に明治三九年五月創立した。校舎を始め芝小、神明小、御田高等小学校内と次々に移転し昭和五年四月に竹芝小校に移り一〇年九月現在地に移転し夜間の甲種実業学校となった。一三年四月より昼間授業を行った。
市立麻布商業学校 麻布区仲ノ町七番地に大正一二年四月一八日創立した。昭和九年三月、麻布区工学校と改称し、一〇年八月麻布小学校の旧校舎に移転独立した。

市立赤坂商業学校 赤坂区松町一四番地に昭和八年四月創立された。そのほかに、大正期に開設になった、芝区若葉野学校・御田実務専修学校・三光商工学校・東町実業学校・錦葉実業学校・三河台実業学校・赤坂製菓学校・麻布商工実務学校等があったが、いずれも昭和一〇年四月



慶応大学校 (『赤坂区史』)

東京府立女子専門学校 芝区芝赤羽町に昭和一八年四月創立された。
本校は、家事科(後に保健科と改称)、数学科、物理化学科を中心に第二部(夜間授業)も置かれている。
転じてきて、同一年一月に、「東京府青山師範学校」と校名改称し、以後昭和一一年四月に世

(二) 専門学校・師範学校

の青年学校新設により廃止となった。
官立の専門学校は数が少ないが、港区地域では次のような専門学校が設立されている。
東京高等工業学校 芝区芝新町に大正一二年九月創立された。本校は、実業学校令及専門学校令に依り工芸に従事しようとする者に、高等の学術技能を授ける所とし、修業年限は三年であった。学科は、工芸図案科及工芸彫刻部、金属工芸科、精密機械科、木料工芸科、印刷工芸科及写真材料等に分かれていた。
昭和一九年四月に東京工業専門学校と改称した。

除・省略・繰返・付加・移動した内容を表示し、新配当時数を示している。

また、教育課程研究協議会では学習指導要領の改訂のつど研究協議し新教育課程の円滑な移行と編成にそなえた。とくに昭和五二年の改訂では「ゆとりの時間」の増まし活用について研究し多様な内容や方法について実態をとりあて検討している。

目 (二) 教育目標と指導の重点

大見出し 教育目標の動向

各校の重点教育目標（港区学校教育要綱、港区指導要領表）

区教育委員会の教育重点目標について、その表現やとりあての項目には年度により若干の違いがあるが

項目	年 度				備 考
	昭和四四年度	昭和四五年度	昭和五〇年度	昭和五五年度	
よく考える子	29	28	25	30	進んで学ぶ、創造力、自主性を重んずる
心身ともにじょうぶでたくましい子	24	27	23	30	
心ゆたかな思いやりのある子	27	15	19	28	やさしき、人間関係、自然観察、自主性を重んずる
ねばり強くやりとげる子	19	10	18	18	
きまりを守り責任をはたす子	8	6	6	8	実行力、自律心、責任感、自主性を重んずる
きまりよくけじめをつける子			4	3	
なかよく助けあう子			18	19	
乳歯正しい子	1	1			
進んで働く子		1			
その他	2	1			物を大事にする、要領心など

一貫して強調していることは、人間尊重、心身の健全、気品と高い知性、心のゆたかさ、他人との協調や励ましなどである。こうした重点目標を各学校がうけ、それぞれ学校教育目標をたてている。上の表は昭和四四年、五〇年、五五年、五九年の四年の区立小学校二七校の教育目標に示された項目をまとめたものである。

この表によると、各学校が最も力を入れたことは「考える子」と「進んで学ぶ、創造力、自主性を重んずる」の育成である。深く考える、すじ道を行って考え工夫することが二〇年間変わらずトップを占めている。これは高い知性を育てることを第一にしているといえる。第二位・第三位は「思いやりのある心ゆたかな子」と、「じょうぶでたくましい子」が交互に二・三位を占めているが五九年にあつては「健康」がトップに出ている。健康や、豊かな情操がいかに大事かがうかがわれる。また、五五年、五九年では「ねばり強くやりとげる子」が多くとりあげられている。強い意志力がのぞまれてきている。また「なかよく協力する子」や「きまりを守り責任を果たす子」などもかなりの学校の教育目標にとりあげられている。

各学校では、その年度の指導の重点を定めその達成に努めてきた。これは教育目標の具現化の一つである。区内二七校と伊豆健康学園の指導の重点を学習指導と生活指導、二つに分け、昭和四四年、五〇年、五五年、五九年の各年度からとりあげてみると次のとおりである。

中見出し 昭和四四年度 指導の重点

学習指導 学習指導のうち多いのは、(1) 思考力の育成 (2) 基礎学力の充実 (3) 自主的な学習態度の育成 (4) 意欲的な学習態度の育成と記している。その他数は少ないが、健康的学習方法の体得、読書指導の充実、物の見方・考え方の育成などがあげられている。このように思考過程を通じて思考力を育成し基礎学力を身につけさせようとするのが特色である。

生活指導 生活指導については最も多いのは健康安全に関する習慣化である。これは交通安全をはじめ災害・誘いかいなどに対する指導の徹底というところで各学校とも最も力を入れていることである。これに次いで体力づくりがある。さらに、正しい生活習慣の定着、自主自立的生活態度の育成、心のやさしい思いやり、たくましさ、実行力、集団規律、やりとげる態度、協調性などの育成がとりあげられている。

昭和五〇年度 指導の重点

学習指導 昭和五〇年度も思考力・創造力の育成がトップでこれに続いて基礎学力の充実、主体的な学習態度で、さらに読書力の育成、進んで目標計画をたて自ら学ぶ態度、意欲的な学習態度、情報収集処理能力の育成などがあげられている。

生活指導 ここでも健康安全に対する指導が第一位でこれに続いて体力づくり、心の交流と人間関係づくり、規律ある生活習慣の育成、人権尊重の指導と記している。また日常生活の行動様式の徹底、道徳教育の向上、集団内の規律ある態度、助け合いはげまし合う心の育成、責任ややりぬく力、品位あることばづかいなどがあげられる。

昭和五五年度 指導の重点

学習指導 昭和五五年度になると指導の重点としてとりあげられる項目は次のことに集約している。すなわち、基礎的、基本的事項の学習の充実、思考力・創造力の育成、主体的学習態度の育成などである。

生活指導 では、依然として、健康安全の習慣化がトップを占めている。これについて、基本的行動様式の徹底、教師と児童・児童相互の心の交流をはかり親しみのある人間関係をつくることである。なお、集団の中で個性の伸長、はげましい助けあう態度の育成、基本的生活習慣の徹底、最後までやりとげる根気強さ、素直で感動できる心情、正しい判断と行動のできる実践力、気品のある行動力、自他の人格尊重の心などの育成がとりあげられている。

昭和五九年度 指導の重点

学習指導 これについては、基礎的・基本的学力の向上が圧倒的に多く、これについて自主的な学習態度の育成、思考力・判断力の育成、学習意欲の向上、自然物、自然現象に直接触れさせる指導などがあげられている。

生活指導 では、日常の基本的行動様式の習慣化、健康安全指導の徹底、教師と児童間の信頼感を高め人間関係を深めるなどと続き、新しく非行・問題行動の防止があげられ、これに関連し正しい判断と実践力、強い意志と責任感の育成、健全な生活態度の育成がとりあげられている。